

令和6年11月24日(日)施行

## 第216回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解答

## 第1問

①	直接労務費	②	間接経費	③	間接材料費
④	直接材料費	⑤	間接労務費		

## 第2問

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	材料	281,500	買掛金	281,500
2	仕掛品	151,000	材料	168,000
	製造間接費	17,000		
3	仕掛品	1,604,280	賃金	1,844,000
	製造間接費	239,720		
4	仕掛品	937,400	製造間接費	937,400
5	製品	328,370	仕掛品	328,370
6	売掛金	800,000	売上	800,000
	売上原価	527,460		

**第3問**

## 直接材料費

月初仕掛品	¥ 192,000 ?個	当月完成品	(¥ 739,400 ) ?個
当月投入	¥ 785,400 ?個	月末仕掛品	(¥ 238,000 ) ?個

## 加工費

月初仕掛品	¥ 160,400 ?個	当月完成品	(¥ 1,247,150 ) ?個
当月投入	¥ 1,288,000 ?個	月末仕掛品	(¥ 201,250 ) ?個

**第4問**

①	エ	②	ウ	③	ア
④	オ	⑤	イ		

**第5問**

## 原価計算表

(単位：円)

製造指図書 摘要	#107	#108	#109	合計
月初仕掛品原価	( 1,600,495 )	—	—	( 1,600,495 )
直接材料費	—	( 208,000 )	( 205,020 )	( 413,020 )
直接労務費	( 145,250 )	( 813,750 )	( 161,000 )	1,120,000
製造間接費	( 206,255 )	( 1,155,525 )	( 228,620 )	1,590,400
合計	( 1,952,000 )	( 2,177,275 )	( 594,640 )	( 4,723,915 )
備考	完成	完成	仕掛中	

令和6年11月24日（日）施行

## 第216回 全経簿記能力検定試験 2級 工業簿記 解説

### 第1問

- ① 製造部門の正規工員が製造用機械のプログラム変更に要した時間分の賃金消費額は、製品の製造に直接的にかかわった人に支払われる給料であるため、直接労務費である。
- ② 工員が受講するプログラミング講座の受講料会社負担額は、製品の製造に直接的に消費する費用ではないため、間接経費である。
- ③ 金属部品を梱包する際に使用する緩衝材の消費額は、製品の製造に直接的に消費する材料費ではないため、間接材料費である。
- ④ ネジを製造するための鋼材の消費額は、製品（ネジ）の主要材料の消費額であるため、直接材料費である。
- ⑤ 製造部門の正規工員が製造機械のメンテナンスに従事した時間分の賃金消費額は、製品の製造に直接的にかかわった人に支払われる給料ではないため、間接労務費である。

### 第2問

1. 製品を製造するための各種物品合計¥273,000を購入した場合、材料勘定を用いて処理するが、送料¥8,500は材料の取得原価に加算する。

#### 取得原価の計算

$$\begin{aligned} \text{取得原価} &= \text{¥}273,000 + \text{¥}8,500 \\ &= \underline{\text{¥}281,500} \end{aligned}$$

代金は送料とともに仕入先の普通預金口座に翌月末までに振り込むので、買掛金勘定を用いて処理する。

2. 製品を製造するために材料を消費した場合、直接材料費となる。よって、素材¥32,000と買入部品¥119,000は、仕掛品勘定を用いて処理する。

#### 直接材料費の計算

$$\begin{aligned} \text{直接材料費} &= \text{素材} + \text{買入部品} \\ &= \text{¥}32,000 + \text{¥}119,000 \\ &= \underline{\text{¥}151,000} \end{aligned}$$

残りの¥17,000は、製造用機械の燃料として消費されたもので間接材料費となる。よって、製造間接費勘定を用いて処理する。

#### 間接材料費の計算

$$\begin{aligned} \text{間接材料費} &= \text{出庫した各種物品合計} - \text{直接材料費} \\ &= \text{¥}168,000 - \text{¥}151,000 \\ &= \underline{\text{¥}17,000} \end{aligned}$$

材料を消費した場合は、材料勘定の貸方に記入する。

3. 当月の直接工賃金消費額¥1,844,000のうち、加工時間592時間と段取時間104時間は直接労務費となり、賃金勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をし、間接作業時86時間が手待時間18時間は間接労務費となり、賃金勘定から製造間接費勘定へ振替える処理をする。

#### 直接労務費の計算

$$\begin{aligned} \text{直接労務費} &= \text{直接工賃金消費額} \div (\text{加工時間} + \text{段取時間} + \text{間接作業時間} + \text{手待時間}) \times (\text{加工時間} + \text{段取時間}) \\ &= \text{¥}1,844,000 \div (592\text{h} + 104\text{h} + 86\text{h} + 18\text{h}) \times (592\text{h} + 104\text{h}) \end{aligned}$$

$$= ¥1,844,000 \div 800h \times 696h$$

$$= \underline{¥1,604,280}$$

**間接労務費の計算**

$$\text{間接労務費} = \text{直接工賃金} - \text{直接労務費}$$

$$= ¥1,844,000 - ¥1,604,280$$

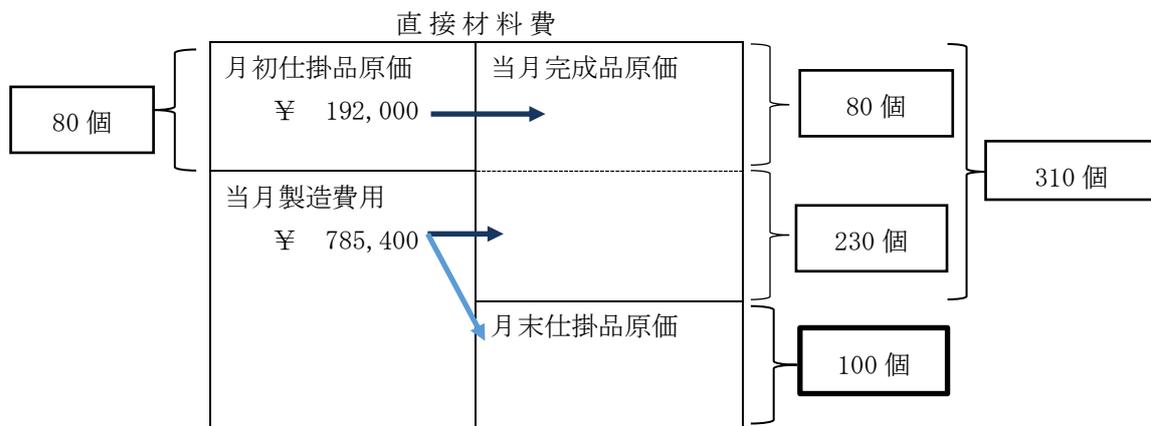
$$= \underline{¥239,720}$$

4. 当月の製造間接費配賦額が¥937,400であった場合、製造間接費勘定から仕掛品勘定へ振替える処理をする。
5. 製品が完成し、顧客に引き渡すまでの間、倉庫に保管することにした場合、その製品を製造するために要した製造原価¥328,370を仕掛品勘定から製品勘定へ振替える処理をする。
6. 売上原価対立法により記帳をおこなうので、先月完成し倉庫に保管していた製造原価¥527,460の製品を顧客に引き渡した場合、製品勘定から売上原価勘定へ振替える処理をする。  
尚、同製品を¥800,000（売価）で引き渡したので、売上勘定を用いて処理をする。又、その代金は翌月末までに当社の当座預金口座に振り込まれることになっているため、売掛金勘定を用いて処理をする。

**第3問**

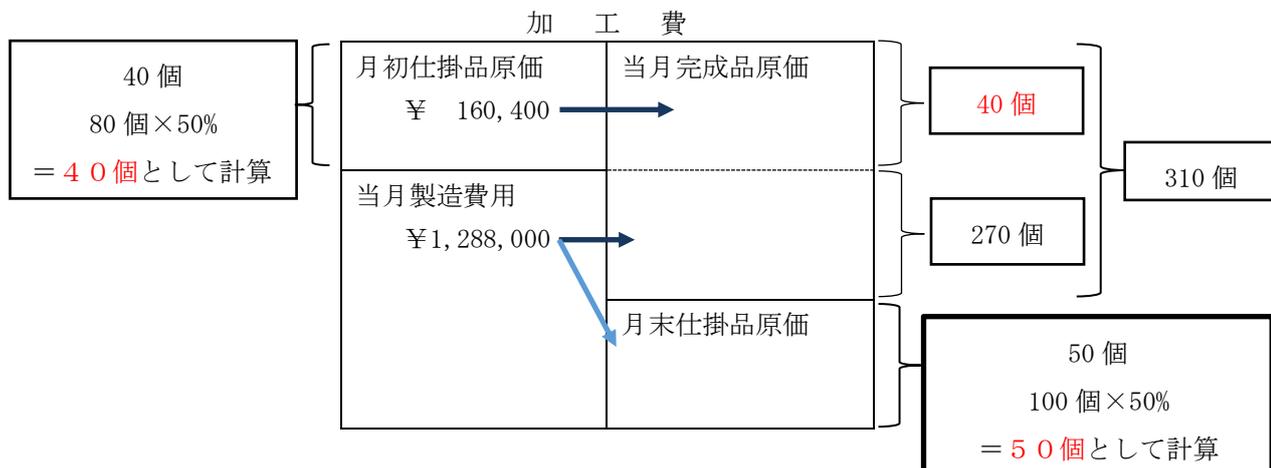
月末仕掛品原価と完成品原価を求める。

材料は始点で全量投入 月末仕掛品の評価は先入先出法によって計算



$$\text{月末仕掛品原価} : ¥785,400 \div (230 \text{ 個} + 100 \text{ 個}) \times 100 \text{ 個} = \underline{¥238,000}$$

$$\text{当月完成品原価} : ¥192,000 + ¥785,400 \div (230 \text{ 個} + 100 \text{ 個}) \times 230 \text{ 個} = \underline{¥739,400}$$



月末仕掛品原価：  $\text{¥}1,288,000 \div (270 \text{ 個} + 50 \text{ 個}) \times 50 \text{ 個} = \text{¥}201,250$

当月完成品原価：  $\text{¥}160,400 + \text{¥}1,288,000 \div (270 \text{ 個} + 50 \text{ 個}) \times 270 \text{ 個} = \text{¥}1,247,150$

#### 第4問

- ア. 製造間接費の配賦額  
→ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- イ. 当月に販売した製品の原価  
→ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわす。
- ウ. 工場長の給料要支払額  
→ 賃金・給料勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわす。
- エ. 製品に取り付ける買入部品の消費額  
→ 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわす。
- オ. 当月に完成した製品の原価  
→ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわす。

- ① 材料勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。

これは、材料の消費額のうち直接材料費を意味している。よって、製品に取り付ける買入部品の消費額をあらわしていることになるため、 **エ** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 材 料
-----------	---------

- ② 賃金勘定から製造間接費勘定への振替えをあらわしている。

これは、賃金の消費額のうち間接労務費を意味している。よって、工場長の給料要支払額をあらわしていることになるため、 **ウ** となる。

(借) 製 造 間 接 費	(貸) 賃 金 ・ 給 料
---------------	---------------

- ③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振替えをあらわしている。

これは、製造間接費の配賦額をあらわしているため、 **ア** となる。

(借) 仕 掛 品	(貸) 製 造 間 接 費
-----------	---------------

- ④ 仕掛品勘定から製品勘定への振替えをあらわしている。

これは、当月に完成した製品の原価の振替えをあらわしていることになるため、 **オ** となる。

(借) 製 品	(貸) 仕 掛 品
---------	-----------

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振替えをあらわしている。

これは、製品の販売時に、製品の原価を売上原価勘定に振替えたことを意味している。よって、当月に販売した製品の原価をあらわしていることになるため、 **イ** となる。

(借) 売 上 原 価	(貸) 製 品
-------------	---------

## 第5問

## 材 料 元 帳

## 原 料 a

(単位：円)

日付	摘要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額	
10	1	前月繰越	50	390	19,500				50	390	19,500
	8	仕 入	500	( 401)	200,500				(550)	( 400)	(220,000)
	9	出庫(#108)				520	( 400)	(208,000)	( 30)	( 400)	(12,000)
	24	仕 入	500	(402.12)	201,060				(530)	( 402)	(213,060)
	26	出庫(#109)				510	( 402)	(205,020)	( 20)	( 402)	( 8,040)
	31	次月繰越				( 20)	( 402)	( 8,040)			
			(1,050)		(421,060)	(1,050)		(421,060)			
11	1	前月繰越	( 20)	( 402)	( 8,040)				( 20)	( 402)	( 8,040)

**製造指図書#107**

&lt;前月より製造着手 当月完成&gt;

 月初仕掛品原価  
 直接労務費

 【問題文3】より 仕掛品勘定の前月繰越額  $\yen1,600,495$ 

 【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より  
 $\yen1,120,000 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 83 \text{ 時間} = \yen145,250$ 

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦しているとあるので【問題文5】当月の直接作業時間より

 $\yen1,590,400 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 83 \text{ 時間} = \yen206,255$ 

合 計

 $\yen1,600,495 + \yen145,250 + \yen206,255 = \yen1,952,000$ 
**製造指図書#108**

&lt;当月より製造着手 当月完成&gt;

直接材料費

【問題文4】材料元帳作成より

 $10/9$ に出庫した金額  $\yen208,000$ 

直接労務費

 【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より  
 $\yen1,120,000 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 465 \text{ 時間} = \yen813,750$ 

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦しているとあるので【問題文5】当月の直接作業時間より

 $\yen1,590,400 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 465 \text{ 時間} = \yen1,155,525$ 

合 計

 $\yen208,000 + \yen813,750 + \yen1,155,525 = \yen2,177,275$ 
**製造指図書#109**

&lt;当月より製造着手 当月仕掛中&gt;

直接材料費

【問題文4】材料元帳作成より

 $10/26$ に出庫した金額  $\yen205,020$ 

直接労務費

 【解答用紙・原価計算表】直接労務費合計、【問題文5】製造指図書別直接作業時間より  
 $\yen1,120,000 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 92 \text{ 時間} = \yen161,000$ 

製造間接費

【解答用紙・原価計算表】製造間接費合計、【問題文6】直接作業時間を基準として各製造指図書へ配賦とあるので【問題文5】当月の直接作業時間より

 $\yen1,590,400 \div (83 \text{ 時間} + 465 \text{ 時間} + 92 \text{ 時間}) \times 92 \text{ 時間} = \yen228,620$ 

合 計

 $\yen205,020 + \yen161,000 + \yen228,620 = \yen594,640$